

## プレスリリース

### 2025 年度活動報告書 発行のお知らせ

### ～看護工学ラボの新設、POSTECH との連携推進～

報道関係者 各位

平素は大変お世話になりましてありがとうございます。

公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（センター長：片岡一則、所在地：川崎市川崎区殿町、略称：iCONM）は、同センターの活動や報告事項を綴った iCONM ニュースレターを四半期ごとに発行しています。本日、2025 年度分を取りまとめ、弊センターの状況などを添えた「iCONM 2025 年度活動報告書」を発行しましたので、添付させていただきます。

尚、iCONM に拠点運営機構を置く COI-NEXT 川崎拠点（プロジェクト CHANGE）が第 2 フェーズに入り、さらなる「看護×工学」の融合を実践的に進める目的で、「看護工学ラボ」を 4/1 付で iCONM に新設しました。ラボ長（主幹研究員）には、東京大学大学院医学系研究科グローバルナースングリサーチセンター(GNRC)の仲上豪二郎教授が同日付で着任しました。

さらには、昨年 6 月に MoU を締結した韓国・浦項工科大学校（POSTECH）から、Sei Kwang Hahn 教授が、本年 1/1～12/31 の予定で iCONM に滞在し、同学からの博士研究員とともに共同研究を行っています。

今年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

同報告書は、以下の構成となっております。

- ご挨拶/ 片岡一則センター長
- 概要：現時点での組織体制、人員、ダイバーシティ、各ラボの研究概要
- 出来事：2025 年度の 61 件の主な出来事について解説
- 研究推進および支援活動：イノベーション推進チームの活動報告
- まとめ

尚、四半期ごとに発行するニュースレターのバックナンバーは以下のサイトから閲覧可能です。

[https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/activities\\_news\\_letter.html](https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/activities_news_letter.html)

## 公益財団法人川崎市産業振興財団について

川崎市の100%出捐により昭和63年に設立され、川崎市内及び周辺地域の産業経済の発展に寄与すること、また、先端的な医療分野、薬学分野等における研究開発の推進等により医療・福祉の向上などを目的としています。行政や関係機関、各拠点と連携し、川崎市産業振興会館を市内中小企業・ベンチャーの支援拠点として位置づけ、経営支援強化をはじめ、新産業・新技術の創出支援など、産業振興に関わる諸事業に積極的に取り組むと同時に、中小企業・ベンチャー等の抱える課題の解決に向けて、「総合的な支援サービスの提供」に注力しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

## ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成27年4月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

## プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JSTによる「令和4年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」(共創分野・本格型)に川崎市産業振興財団(理事長:鈴木毅、所在地:川崎市幸区、略称:KIIP)が代表機関となり申請し、2022年10月25日に採択されたCOI-NEXT川崎拠点のことをプロジェクト CHANGE と呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目してケア業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー(ケアする力)を高め、誰もが簡便に扱えるケア製品やシステムを開発します。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>